

演題 「スポーツデータを活用した競技力の向上」

講師

國學院大學 人間開発学部 健康体育学科 准教授

わたなべ けいた
渡辺 啓太 氏



経歴

(一社)日本スポーツアナリスト協会
代表理事
(公財)日本オリンピック委員会
選手強化本部中長期戦略
プロジェクトメンバー
JOC Top Sports Databas
スーパーバイザー
情報・医・科学専門部会
情報・科学サポート部門員
ナショナルコーチアカデミー講師
(公財)日本バレーボール協会
アスリート委員会主事・情報戦略
ユニットメンバー
JAPAN SPORTS WEEK
アドバイザーコミッティー委員

専門はスポーツ情報戦略、高度競技マネジメント。

「ITをスポーツに活用すること」を志して大学時代に独学でアナリスト活動を開始。

在学中にバレーボール女子日本代表チームのアナリストに抜擢され、北京、ロンドン、リオデジャネイロの3度のオリンピックを含め10年以上にわたりアナリストとして情報戦略面のサポートを率いた。

2020東京オリンピックではTOKYO2020対策プロジェクトリーダーとして、バレーボール日本代表チーム全体の強化支援・マネジメントを行い、2024パリオリンピックでは、TEAM JAPAN選手団本部の情報・科学スタッフおよびバレーボール女子日本代表チームのチームリーダー兼戦略コーディネーターを務めた。

チームや選手のニーズに寄り添ったデータ・テクノロジー活用によるパフォーマンス向上の実現をモットーとし、2010年には世界で初めてiPadを用いた情報分析システムを考案・導入。32年ぶりとなる世界選手権でのメダル獲得、2012年のロンドンオリンピックでは28年ぶりとなる銅メダル獲得に貢献した。

2014年には競技の枠組みを超えたスポーツアナリストの連携強化及び価値向上を目指して日本スポーツアナリスト協会を創設し、日本初のスポーツアナリティクスカンファレンス・SAJなどを主催している。さらに、海外のスポーツアナリスト育成システムを学び、スポーツアナリスト育成プログラムの開発や、アナリスト養成キャンプの主催、大学での研究・教育などを通じて後進育成やスポーツ指導におけるデータ・テクノロジーの活用促進・教材開発にも注力を続けている。

また、日本バレーボール協会のハイパフォーマンスデータベースの立ち上げや、日本オリンピック委員会のJOC Top Spots Databaseの立ち上げ・スーパーバイザーを努めるなど、スポーツ界におけるDX化を推進している。